

令和5年度 中国四国医師会連合勤務医委員会

医師会の組織強化～研修医の入会促進に向けて議論～

と き 令和5年9月24日(日) 午後1時

ところ JRホテルクレメント高松 Web開催



広島県医師会	副会長	岩崎	泰政
広島県医師会	常任理事	大田	敏之
広島県医師会	常任理事	中西	敏夫
広島県医師会	常任理事	西野	繁樹
広島県医師会	常任理事	平川	治男



協議の様様

香川県医師会の担当により開催され、日本医師会の今村英仁常任理事をお迎えし提出された議題8題について協議・意見交換が行われた。今回、若手医師・研修医の参加が呼びかけられ、本会から岩崎泰政副会長、大田敏之・中西敏夫・西野繁樹・平川治男常任理事、板本敏行勤務医部会会長のほか、県立広島病院研修医の藤井康充先生が出席した。

以下、概要を報告する。

挨拶

勤務委員会委員長 若林 久男
(香川県医師会副会長)

来春より医師の働き方改革が実施される。この施策は救急医療含め地域医療に大変大きな影響を及ぼすことが懸念されている。日本医師会は組織強化のために若手医師、研修医の入会促進に向けて強力に取り組んでいる。勤務医が活躍し魅力を感じる医師会であるためには、勤務

医の意見を集約し日本医師会に届ける仕組みが必要である。全国の勤務医の活動を活性化し意見を集約するために、各ブロックの中に勤務医委員会を設置して意見を集約する。あるいは横展開により活動を豊かにするような仕組みが重要である。

議 事

各県の取り組みを報告後、医師会活動（医師会組織強化）に関する若手医師及び研修医の意見を伺う形式で若林久男委員長により議事が進行された。

各県医師会からの提出議題に対する討論 ＜医師会の組織強化関係 6題＞

議題1 勤務医への医師会入会勧誘について
(鳥取県)

議題2 研修医の医師会入会促進について
(山口県)

議題3 卒後5年間会費無料化は、継続的な医師会入会率UPにつながるか？
(徳島県)

議題4 大学病院職員における医師会加入状況の把握と若手医師への展開
(愛媛県)

議題5 臨床研修指定病院からみた初期研修医の医師賠償責任保険加入の必要性
(高知県)

議題6 すべての研修医が医師会に入会する仕組みづくりについて
(香川県)

＜医師の働き方改革関係 2題＞

議題7 地域における医師会の公衆衛生活動への勤務医の参加の現状と今後の展望について
(岡山県)

議題8 宿日直許可について
(広島県)

各県より医師賠償責任保険（以下、医賠償）、医師資格証（HPKIカード）、医師年金をアピール材料に若手医師の会等を通じた入会勧奨、大学や臨床研修病院との連携強化のための医学部長・病院長との検討会開催などが報告された。

入退会・異動に関して手続きをGoogleフォームを利用して代行入力するサポートデスクの取り組みが報告された。5年間の医師会費無料については入会促進につながっているのかどうか判断できない状況にあることや、卒後6年目以降も入会を継続してもらえるのかどうかの懸念があるとの意見があった。

各県からの報告に対して出席の研修医等若手医師からは、「日医医師賠償責任保険（以下、日医医賠償）、医師会の役割などを初めて知った。広報が研修医まで伝わっていない」「医局含めどこかに所属することにデメリットを感じている方が多い。なぜ医師会に入らなければならないのか、所属することでどういうメリットがあるのか示してほしい。5年間会費無料になり6年目以降も何かメリットを享受したいから継続するというような流れにならない」「無料だけではメリットを感じない」「5

年目～15年目の先生が医師会に入会され、その先生方から誘ってもらえるような流れが若手も入りやすいと思う」などの意見があった。

広島県から出席の藤井康充先生（研修医2年目）は「名古屋市立大学では学生の頃から医賠償を気にしており一番安いのは日本医師会だということをみんな知っている状態であったが、広島に研修医として戻ってきて先輩に聞いたところ、何の医賠償にも入っていないという先輩ばかりで同級生も入っていない。学生の頃には医賠償のある日本医師会に入らなければならないと思っていたが、周りの先生方に流されてしまい、結局1年たってやっと日本医師会に入会した。医師年金については今の若者はiDeCoやNISAに関心がある。シミュレーションしたが圧倒的にiDeCoの方が資産形成として良いと感じている。入退会についてはインターネット・デジタルが発達しているのでWebは必須である。私自身財布を持ち歩いていない生活をしている中で、紙で入会するのは慣れない作業であり、どこで入手したら良いのかネット検索しても出てこないため入会の仕方が難しい。入会するメリットに関しては、若手の活動内容がほとんど見えないため、分からないものにはちょっと入りたくない。分からないものは怖いものと考えてしまう」との発言があった。

日本医師会未来医師会ビジョン委員会委員の小林孝一郎先生は3年目・5年目の医師へのアプローチが重要である。今は自身でキャリアをデザインする時代であり、キャリアをサポートし、寄り添う立場の日本医師会でなければならない。そのためにはさまざまな事業やサポートを用意しながら、3年目・5年目の医師の退会防止を講じていかなければならない。また、大学医師会の協力も重要であり連携強化を図っていただきたい。さらに5年目から10年目の先生方にとってはキャリアを積み重ねて専門医を取得する課程にある。学術の面でもさまざまなアプローチをしていくことも重要である。京都府医師会の屋根瓦塾は医師会の紹介や医師会の若手医師が主体となった活動などが開催され、成長・学びの場を医師会が作っている。若手医師に役割を与えて医師会の中で活動ができることが大切であるとして若手医師が参画できる環境づくりの理解を求めた。

本会からは研修医の活動など資金面を含め医師会がサポートする体制づくりや、全国大学医師会連絡協議会が休眠状態であることを指摘し、日本医師会から大学や初期臨床研修指定病院内

長への働きかけを求めた。

日医への提言・要望

- 1) 卒後6年目以降の勤務医会費の段階的減免措置をお願いしたい (鳥取県)
- 2) 2040年問題と勤務医の将来 (広島県)
- 3) 医師の働き方改革について勤務医目線のYouTube作成を! (高知県)
- 4) 勤務医の意見を集約する仕組みの早期の確立について (香川県)

日本医師会の今村英仁常任理事は、全国大学医師会連絡協議会のみならず各大学医師会や初期臨床研修病院へのアプローチ活動を報告。また、卒後6年目以降の対応については5年間の会費無料化を踏まえて次のステップを検討していくことや2040年問題に触れ、医療従事者が減少していく中で医療DXの推進と勤務医の将来を考えていかなければならないと総括した。

次回開催について

岡山県医師会の担当により、令和6年9月28日(土)・29日(日)の中国四国医師会連合総会時に開催予定である。

担当理事コメント

中国四国医師会連合会終了後の午後に当委員会が開催された。

勤務医の最大の関心事項は医師の働き方改革であるが、今回の8つの議題のうち2つのみで

あった。今回の議論は勤務医を中心とした医師会組織の強化に終始した。若手医師、研修医の入会促進のために日本医師会が卒後5年間の年会費免除を英断したことは周知のことであるが、それをその対象者がどのように捉えているのかの情報がなかった。今年の委員会で特筆すべきは、若林委員長の発案による委員会への当事者参加であった。中国四国各県より1~2名の若手、研修医医師の参加があり、われわれの時代と違った考え方を拝聴することができて非常に興味深かった。Z世代特有ではないのであろうが、われわれのような「長いものには巻かれろ」的な考え方よりも、「大きな組織に属することを敬遠する」という気質を新鮮に感じた。

委員会中に得た有益な情報を箇条書きに記載する。

1. 日医医賠償に関して聞いたことがない(そもそもアピール不足なのか? その発言者の地域の問題なのか?)。
2. 日医医賠償は知っているが、他の損害賠償保険とのメリット、デメリットの情報が少ない(広島県医師会のようにパンフレットを各県で作成しては?)。
3. 学生時代に医賠償のことを学ぶ大学がある(すべての大学で教育する必要性を感じた)。
4. 京都府医師会の屋根瓦塾のような若手に役に立つ仕組みを作ろうとしている若手がいる(愛媛県医師会にその試みに対する経済的援助をお願いした)。

(大田 敏之)

広島県開業医休業補償制度にご加入の皆様へ重要なお知らせ

本制度は相互扶助の理念に基づき、加重平均を用いて加入者(開業A会員)全員一律の保険料を適用していますが、近年、加入者の年齢層の上昇により保険料の値上がりが続いております。

ついては、加入者の皆さまにはすでに個別にご案内しております通り、適正な保険料の維持のため、**令和5年(2023年)12月より、満期脱退年齢を現行の77歳から75歳へ引き下げる**ことといたしました。※令和3年度第14回常任理事会承認(令和3年8月10日開催)

これまででも新規加入者の積極的募集や団体割引の拡大などにより保険料維持に尽力してまいりましたが、いずれも抜本的解決とはならず、やむなくこのたびの決定となりました。ご加入者の皆さまには、何卒諸般の事情をご賢察いただき、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。